エンパワーするNGO
YWCA

日韓ユース・カンファレンス 2018

booklet

私の人権のはなし

―私たちにとって「美しさ」とは何か？―

企画・実施：
日本 YWCA 日韓ユース・カンファレンス実行委員会

Table of Contents

1. 背景・趣旨説明（実行委員長・福田百）　…3

2. イベント報告

2-1. 「私の人権のはなし」神戸開催

なぜ私たちは、見た目で判断してしまうのか？～釜ヶ崎における貧困問題のケースから～（福田百）　…5

2-2. 「私の人権のはなし」東京開催

「美しさ」は、誰が決める？～ルッキズムに関する日韓比較～（副実行委員長・大倉栞里）　…8

3. ルッキズム体験エピソード／「私たちにとって『美しさ』とは何か？」…11

4. ルッキズムに関するアンケート 結果・考察（大倉栞里）　…13

5. あなたの周囲でもルッキズムについて考えてみよう！ワークショップ集　…26

6. 韓国の若者より　…29

YWCA とは

YWCA（ワイ・ダブリュ・シー・エー/Young Women's Christian Association）は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855 年英国で始まり、今では日本を含む 120 あまりの国で、約 2,500 万人の女性たちが活動しています。世界の YWCA のネットワークを生かして、地球規模で、且つ女性の視点をもって、平和・非暴力・ジェンダー・貧困など、さまざまな問題に包括的に取り組んでいます。日本では、24 の地域 YWCA と 37 の中学・高等学校 YWCA が活動しています。

日韓ユース・カンファレンスとは

日本と韓国のユース(30 歳以下)メンバーが寝食を共にしながら、日韓共通の課題に取り組む草の根の対話・交流プログラムです。1993 年に初めて開催されて以来、韓国・日本を毎年交互に会場として、平和を創造するユースのリーダーシップ育成に貢献してきました。

2017 年度は大阪にて、「私たちの生きづらさを考える　～社会的承認と貧困～」をテーマに、フィールドワークやディスカッションを行いました。子どものシェルターや若い女性の自立援助ホーム、在日コリアンの多住地域や日雇い労働者街を訪れ、また社会的養護の当事者の方々など、多様な人に出会いました。参加者は対話を通して自身を見つめ、他の参加者と繋がり合いながら、「生きづらさ」を引き起こす社会的諸要因について考えを深めていきます。

2018 年度は、そのフォローアップとして企画・実施してきました。

1. 背景・趣旨説明

「私の人権のはなし」は、2017 年度の日本 YWCA・韓国 YWCA 共催プログラム「日韓ユース・カンファレンス」を受け、企画されたイベントシリーズです。2017 年度は、日本と韓国の若い参加者が 3 泊 4 日で、「私たちの生きづらさを考える　～社会的承認と貧困～」というテーマの下、スタディーツアー形式で学びました。釜ヶ崎のフィールドワークを通して、見た目による偏見を含む差別の対象となる日雇い労働者や、また若者の自己肯定感に関する問題について学び、それらがより自分事となる契機を得ました。その学びと、そこで成立したアクションプランを受けて、プログラム後もよりよい社会を目指してなにかアクションを起こしていこうじゃないか、と集まった 30 歳以下の若い女性が中心の実行委員会が、2018 年度、企画・実施を進めてきたプログラムです。

「私の人権のはなし」とは、具体的に、「ルッキズム（外見によって人を評価・判断・差別する現象）」をキーワードに、人権について考えるイベントシリーズ。特に、若いユース世代を中心に、見えづらい人権問題に触れながら、自身の生きづらさやモヤモヤの正体が何であるのかを発見し、自分と社会の関係について考えを深める場となることを目指し、実施しました。イベントは二部構成で、第一部は講演、第二部は自分自身に引き付けて人権を考えるワークショップとしました。

神戸開催回は、2018 年 10 月 20 日(土)神戸 YWCA チャペルにて行いました。テーマは、「なぜ私たちは、見た目で判断してしまうのか？～釜ヶ崎における貧困問題のケースから～」。講師には、白波瀬達也先生をお迎えしました。東京開催回は、2018 年 10 月 28 日(日)ちよだプラットフォームスクウェアにて行い

ました。テーマは、「『美しさ』は、誰が決める？～ルッキズムに関する日韓比較～」。講師には、西倉実季先生をお迎えしました。

近年、「インクルーシブな社会」という言葉を耳にする機会が増えてきているように思います。多様な誰もが排除されず、お互いに尊重し支え合い、共に生きていくことのできる社会。そんな社会が実現したら、とても素敵です。しかし、現実の世界では、生きづらさを抱えた「私たち」がいます。でも、その生きづらさは、個人の問題なのでしょうか。特定の誰かが差別され、排除されている現実があるのではないでしょうか。そして、誰もが受け入れられる社会であるべきなのではないでしょうか。年齢や国籍、性、障害の有無…など、異なって存在している「私たち」。インクルーシブな社会の実現のためには、これまでに形作られてきた価値観の変容が求められているのかもしれません。

本イベントシリーズのキーワードである「ルッキズム」。実行委員で話し合いを重ね、私たちにとって身近な問題から人権について一緒に考えたいと願い、見た目・容貌を取り巻く人権問題「ルッキズム」に焦点を当てることにしました。何を美しい/美しくないと感じ、どのように外見を評価・判断・差別し、その評価・判断・差別は何を生み出すのか。それぞれの経験を共有しながら、外見を巡る「美しさ」という価値に関わる社会構造について、みなさんと考えを深めていきたいと思います。

2018 年、世界人権宣言が採択されてから 70 周年を迎えました。世界人権宣言なんて言われると難しいな…と思うかもしれませんが、人権について考えるきっかけにしていけたらと思っています。改めて、自分自身を振り返り、社会を見つめ直し、すべてのいのちが生きやすい社会を実現するためには、どうすべきなのか、共に考えていきませんか？

2-1. 「私の人権のはなし」神戸開催

なぜ私たちは、見た目で判断してしまうのか？

～釜ヶ崎における貧困問題のケースから～

神戸開催会の第１部・講演では、白波瀬達也先生(桃山学院大学社会学部准教授)を講師にお迎えしました。白波瀬先生は、2007 年から 2013 年にかけて地域福祉施設「西成市民館」でソーシャルワーカーとして活動され、2018 年から西成特区構想の有識者として大阪市西成区の社会福祉のあり方を検討する役割を担われています。今回のタイトルの一部になっている「釜ヶ崎」とは、大阪市西成区の北東部に位置するエリアを指します。日雇い労働者の街として知られてきました。近年は経済的な不況、そして労働者の高齢化などで、仕事を失った野宿生活者の増加という問題が社会化しています。今回、白波瀬先生から「見た目×貧困問題・社会」の関係について、お話を伺いました。

「ルッキズム」という言葉は、新聞のデータベースにもほとんどヒットしないほど、一般的に普及していない言葉です。一方で、「見た目問題」と検索すると多くヒットします。しかし、今、あえて「ルッキズム」という言葉を用いる背景として、外見的な美醜を重視する「社会」になってきていることが指摘されました。そして、「ルッキズム」という概念の特徴として、①人の容貌に焦点を当てること、②美醜や「望ましさ」を社会が決定する、そのあり方を問題視すること、の 2 点が挙げられました。特徴②は、個人に焦点が当てられがちであるルッキズムの問題意識に、「地域」の見た目や特徴と絡み合う差別や排除の視点を含み込むものだと言えます。

釜ヶ崎の容貌について、白波瀬先生が共にフィールドワークを行った学生の感想を紹介してくださいました。「道端の至るところでホームレスの人達が下に段ボールを引いて寝ていたり、道路に寝転がっていた。」「行く先々で強いにおいが放たれていたのが、印象的でした。案内人によると、釜ヶ崎の住民の 9 割が男性で、実際女性や子供にはほとんど出会わなかった。」「警察の前で、すっぽんぽんで歩いている人がいるのに、取り締まらないのはおかしい。」

これは、一つの例ですが、釜ヶ崎はこのような容貌・特徴を持つ地域だと認識されています。ルッキズムの視点から釜ヶ崎を捉えた時に生まれる問いとして、次が示されました。一つは、地域の見た目が「普通じゃない」がゆえに、近寄りたくない・避けようとする、地域差別が起こるという、この難題をどのようにして乗り越えられるのか？という問いです。もう一つは、現在の地域の容貌を変えることを良しとするのか？それとも、ありのままを良しとするのか？という問いです。一定の人たちにとっては、違和感や抵抗感のある地域の容貌をしている釜ヶ崎ですが、立場や価値観の違いから、これらの問いへの考え方は異なり、釜ヶ崎の現状（現在の姿）を良しとする立場の人もいます。また、釜ヶ崎が変わっていくことを良しとしていても、変化のあり方に対しても様々な意見があるため、それぞれの立場の人を考慮したまちづくりが求められているのかもしれません。

現在、釜ヶ崎では、アートプロジェクトが進行しています。地域住民の方が、アートを通して表現活動を行いながら、釜ヶ崎のまちづくりを目指すプロジェクトです。

容貌が変わっていく釜ヶ崎という地域。私たちは、その変化をどのように捉えるべきなのでしょうか。それぞれの立場の人たちの想いが大切にされる、地域のあり方とは、どのようなものなのか、考えさせられるお話をしていただきました。

イベント概要

「なぜ私たちは、見た目で判断してしまうのか？　～釜ヶ崎における貧困問題のケースから～」

【日時】 2018 年 10 月 20 日（土）13:30～17:00

【会場】 神戸 YWCA チャペル　（〒651-0093　神戸市中央区二宮町 1-12-10）

【スケジュール】

13:30～　趣旨説明

13:40～15:00　第 1 部 <講演>

講師：白波瀬達也さん（桃山学院大学社会学部）

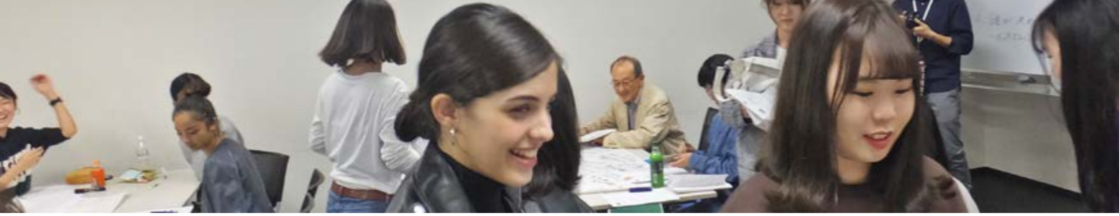
15:15～17:00　第 2 部 <ワークショップ>

【講師プロフィール】

1979 年生まれ。社会学博士。専門社会調査士。社会福祉士。

2007 年から 2013 年にかけて地域福祉施設「西成市民館」でソーシャルワーカーとして活動。2018　年から西成特区構想の有識者として大阪市西成区の社会福祉のあり方を検討する役割を担っている。

単著『貧困と地域　ーあいりん地区から見る高齢化と孤立死』（中公新書　/　単著）、共編著『釜ヶ崎のススメ』（洛北出版）などの著作がある。



2-2. 「私の人権のはなし」東京開催

「美しさ」は、誰が決める？～ルッキズムに関する日韓比較～

東京開催のイベントには、西倉実季先生（和歌山大学教育学部）をお招きしてお話を伺いました。西倉先生は、外見に疾患や外傷をもつ女性たちを対象に研究されています。日本と韓国で共通の社会問題として挙げられるものの一つに、女性の見た目による差別が挙げられると考え、今回企画に至りました。

「ルッキズム」という用語は「外見にもとづく差別または偏見」であり、「魅力的とされた人が優遇されて有利な立場に置かれると同時に、魅力的でないとされた人が機会の否定を通じて不利な立場に置かれる」とされています。すなわち、ルッキズムは単に「外見にこだわること」や「外見を重視する」ことではなく、セクシズム（性差別）、レイシズム（人種差別）、エイブリズム（健常主義、障がい者差別と同義）、エイジズム（年齢差別）などと深く関わり絡み合って、どのような外見の評価基準が誰に、どのように求められているかを問う視点なのです。

美醜に関するハラスメント問題は一般的に、直接的に面と向かって外見を貶める直接的なハラスメント、そして、ある人が不特定の人物の外見を侮辱したり、からかう場合や、メディア上の外見に関する言説に触れることで自身を否定的に評価するようになる間接的なハラスメントがあります。間接的なハラスメントの例として「女で生まれて、コマーシャルとか見てて、タレントさんとか女優さんとか、そういう化粧品の CM とか見てても、自分は絶対にこの人たちのようにはなれないというか。」という語りが紹介されました。ここで重要なのは、美醜は序列概念であるた

め、誰かの外見の美しさに言及することが必然的に他の誰かの醜さを暗示してしまう、という側面です。

そのような外見評価をめぐる生きづらさへの対処として、まず、①他者からの否定的な評価をもたらす外見の特徴を隠蔽・修正すること（カモフラージュメイクやウィッグ）が挙げられました。しかし、外見の特徴を修正・隠蔽させることに対しては、即効性があり容易に採用することができる長所がある反面、隠すことのうしろめたさを感じるとの意見もあります。ここで分かるのは、自分自身や身体に対して、私たちは常に自己モニタリングのまなざしを向けていること、そして身体を修正することが規範化し（当たり前のように期待されるようになり）、その「身体を変える」という行為そのものが、一層「美」や「外見」に縛られてしまう、ということです。また、②自身の中で外見評価の意味合いを変化させることで自身と向き合う方法も紹介されました。あざがあるないにかかわらず、年齢と共に容貌は衰えてくると捉え、比較対象を理想化しないようにすること。また、脱毛症に対するからかいの背景には、女は若く、美しいことが良いとする風潮があることを暴く、などの事例が挙げられました。また、個人レベルでの対処を超えて、社会的につくられた「美」の規範を揺らがすような集合的なプロジェクトも紹介されました。

ルッキズムを考える上での鍵として、外見評価をめぐる女性たちの生きづらさは「個人に起きた出来事」ではなく「政治的な出来事」であり、「美」は社会的産物である、という点があります。外見の評価基準を、私たちはどのように内在化しているのか、それが私たちの心身にどのような影響を与えているのか、そして、どのようにさらなる被害者を生み出しているのかを考える必要があります。

社会と「外見評価」の関係性、そしてその影響について様々な視点から考えさせられる機会となりました。

イベント概要

「『美しさ』は、誰が決める？　～ルッキズムに関する日韓比較～」

【日時】 2018 年 10 月 28 日（日）14:00～17:30

【会場】 ちよだプラットフォームスクウェア　会議室 401

（〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-21）

【スケジュール】

14:00～　趣旨説明など

14:30～16:00　第 1 部＜講演＞

講師：西倉実季さん（和歌山大学教育学部）

16:00～17:30　第 2 部＜ワークショップ＞

【講師プロフィール】

博士（社会科学）。専門社会調査士。専門分野は社会学、 ジェンダー論。外見にあらわれる疾患や外傷を持つ女性たちへの インタビュー調査を継続しながら、外見にもとづく差別や女性に とっての美醜の問題について研究している。主著に『顔にあざの ある女性たち―「問題経験の語り」の社会学』（生活書院／単著）、「美醜評価の中を生き抜くために―美醜ハラスメント被害とその対処 方法」（『女性学』第 21 号）などがある。

3. ルッキズム体験エピソード／
「私たちにとって『美しさ』とは何か？」

神戸・東京で実施したワークショップでは、ワークシートを用いて、①自身あるいは身近な人がした/受けたルッキズムの体験、②どのような外見を「美しい」と思うか、の 2 点について参加者に問いかけました。その後、ワールドカフェ方式で話し合いを深めました。

＜①自身あるいは身近な人がした/受けたルッキズムの体験＞

- アトピーのある娘がその外見でいじめられた。学校内でのことについて先生と話し合ったが、先生には失望した。
- メイクをしないで友人と 2 人でナイトクラブに入ろうとしたら入れてもらえなかった。何故か聞くと、「きちんとドレスアップしていないから」。服装に問題はないはずなのに、何故「きれいにする＝メイクする」なのか混乱した。
- もともと「妃（ひめ）」という名前になる予定だったが、生まれてきた子のかわいくなさに、名前が変更になった。
- 自分の体毛が濃いことで友人にからかわれたことがあります。自分もすごく気にしていたことなので悪く言われたように感じ、思わず感情的になって怒ってしまいました。また毛髪の量が多いこともからかわれたことがあります。その時はもう、大人になっていたので、あまり気にせず笑いに変えました。
- 直接されたことはないが、韓国に住んでいた頃、バイトを探す時に、アクセサリー販売職募集の案内文に「モデル学科、映画学科優遇」と出ていて、諦めたことがある
- 小さい時から「でぶ」「ちび」「ぶす」と言われて、社会の基準からは外れているんだなと思い続けていました。「化粧」をしたって、かわいくならないという思いがあって、ノーメイクでした。（今はメイクをしないのは、積極的な意味で、そうしています）

- 夫から、女が化粧をせずに電車に乗るのは犯罪に近いと言われる。無視しますが、女性に対する希望かと思います。
- コンビニなどで、私目線でかわいい人のレジに並んだことがある。なんだか、清潔感がある気がしたから。
- 仕事としてふさわしい服装をした方が良いと思うことはある（顔や容姿ではなく服装）。その方が信頼される近道だから。
- どこまでが「評価」なのか分からない。アイドルや俳優、あるいは友人でさえ、見た目だけで「かわいい」と言うことなら特に気にせずしている。

＜②私たちにとって『美しさ』とは何か？＞

No.1　自分に自信を持っていること。その人らしいスタイル。

No.2　笑顔。キラキラした表情

No.3　清潔感

意見…「自分を受容し、自信を持っているあり方を美しいと思います。」「美しい存在だと認められてきた人は、自信を持つことができると言える。外見⇔自信の相関関係にある。」「笑顔は私を受け入れてくれていると思うので。」「表情は内面の鏡だと思うから。」

＊ワークシートで多かった回答順に、No.1～3 まで、並び替えています。

外見⇔自信の二項関係に関して：

「自信」はすでに市場に取り込まれているのかもしれません。「美しくありなさい」という直接的なメッセージを聞くことはほとんどありませんが、代わりに「あなた自身の美しさを見つけなさい、そして自信を得なさい」という言い回しが繰り返し使われ、私たちの中に「自信⇔美しさ」という価値観が刷りこまれているのではないでしょうか。

また、「『美しさ』は自分で決める」という語りによって、性差別や人種差別、エイジズム（年齢差別）やエイブリズム（障害者差別）といった「美しさ」が内包する差別に無批判になってしまうことの問題が指摘されました。

4. ルッキズムに関するアンケート 結果・考察

ルッキズムという現象が、どれくらい身近で、しかし見えなくされてきた問題なのかを調査するため、日本語および韓国語でアンケートを作成しました。年齢や性別、YWCA の会員であるかないか等に関わらず、広く、さまざまな方に回答していただきました。

＜アンケートの質問内容＞

1．あなたの属性について教えてください

2．あなたご自身の「ルッキズム」の経験について教えてください

(1) あなたは外見による評価・判断・差別を受けたことはありますか？

(2) (1)で「はい」と答えた方にお聞きします。外見による評価・判断・差別に関して、最も強く印象に残っている経験を受けた時の年齢を教えてください

(3) (1)で「はい」と答えた方にお聞きします。外見による評価・判断・差別をされた相手との関係について教えてください（複数回答可）

(4) (1)で「はい」と答えた方にお聞きします。外見による評価・判断・差別を受けた時、誰かに相談しましたか？

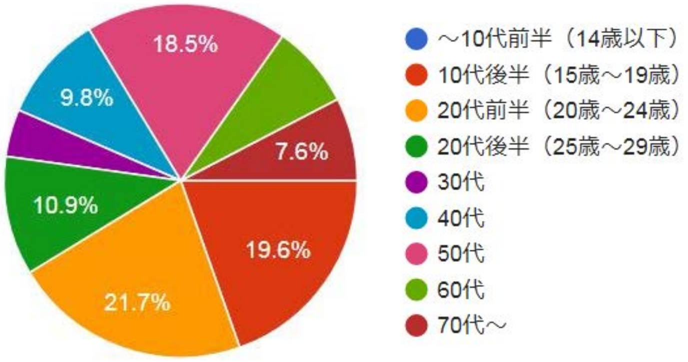
3．あなたの周りの人の「ルッキズム」の経験について教えてください

(1) 周りの人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けたことがありますか？

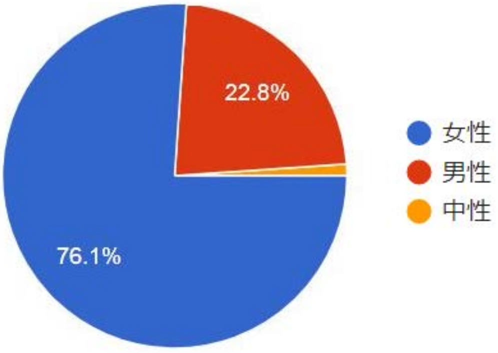
＜日本語版アンケート結果＞　回答者　93 名

1．回答者について

(1）年代

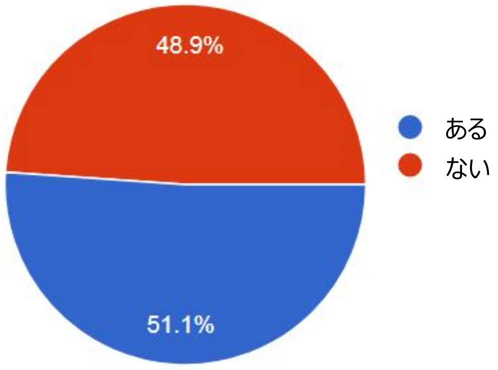


(2）性別

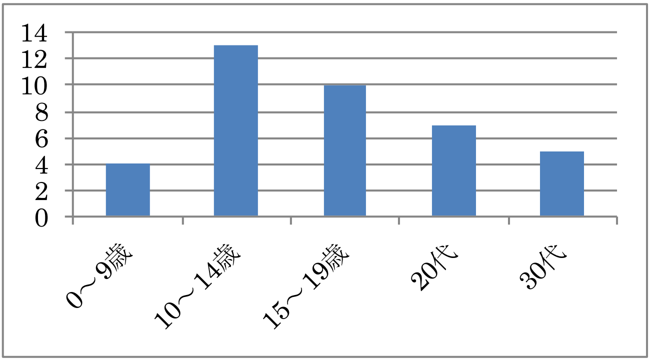


2．回答者の「ルッキズム」の経験について

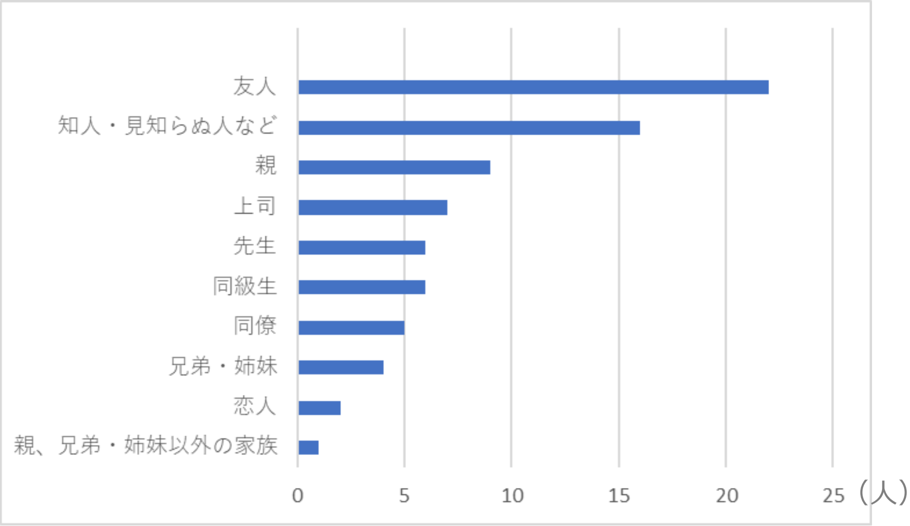
(1) 外見による評価・判断・差別の経験の有無



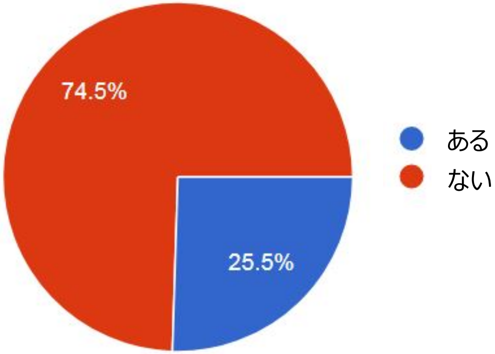
(2) 外見による評価・判断・差別に関して、最も強く印象に残っている経験を受けた時の年齢



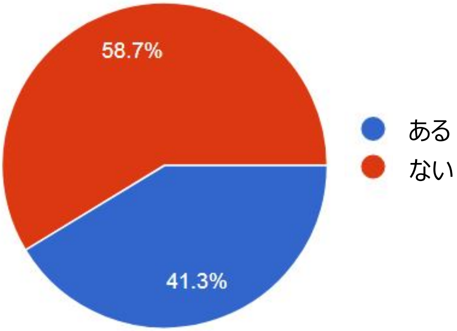
(3) 外見による評価・判断・差別をされた相手との関係



(4) 外見による評価・判断・差別を受けた時、他者に相談した経験の有無



3. (1) 周囲の人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けた経験の有無



＜日本語版アンケート分析結果＞

- 性別および年齢別の結果

	（人）	ルッキズムの経験があると答えた人	外見による評価・判断・差別を受けた時、他者に相談した経験があると答えた人	周囲の人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けた経験があると答えた人
女性 70人 （76.1%）	ユース（30歳以下） 31人	19（61%）	8（42%）	18（58%）
	ミドル（30～50代） 26人	17（65%）	4（24%）	11（42%）
	シニア（60歳以上） 13	3（23%）	0（0%）	2（15%）

	（人）	ルッキズムの経験があると答えた人	外見による評価・判断・差別を受けた時、他者に相談した経験があると答えた人	周囲の人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けた経験があると答えた人
男性 21人 （22.8%）	ユース（30歳以下） 17人	7（41%）	2（12%）	4（24%）
	ミドル（30～50代） 3人	2（67%）	0（0%）	0（0%）
	シニア（60歳以上） 1人	0（0%）	0（0%）	1（100%）

アンケートに記載されたルッキズムの具体例（原文ママ）

- 幼少期からずっと両親に、「美人じゃないのだからせめて勉強ぐらいがんばれ」と言われ続け、最も印象に残った事件、とかではなく「ずっと」です。
- 14 歳　自分ではないが、友達が友達の顔について、あの顔はキモイからキス出来ない。と言ってるのを聞き、自分も容姿に自信がなかったので、怖くなった。いまだに自信が持てない。また、学年で可愛い子/かっこいい子ランキングのアンケートをほぼ全員配り、ランキング付けをする人たちがいて、トラウマになった。
- よく姉と比べられ、劣っていると言われた
- 女の子っぽくしなさい。と言われる（外見を）
- バスの中で子供連れなのに痴漢にあいそうになった
- 20 代・30 代の頃童顔で女性であったことから意見が通らなかった。一方同じことを言った男性の意見が通った。

＜日本語版アンケート考察＞

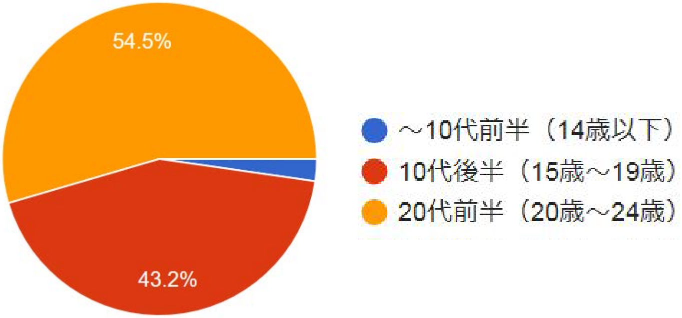
- 「外見による評価・判断・差別を受けたことが無い」という回答に関して、ルッキズムを経験したことがあると答えた人は、想定より少なかった。その理由としては、思い出さないようにしている、忘れてしまった、そもそも気づいていない等の理由によるものだと考えられる。
- 外見を評価・判断・差別されても、他者に相談したことがあると答えた人の割合は少ないことから、見た目に関わる悩みは相談しづらいものであり、ルッキズムが見えにくい問題であることが考えられる。
- 印象に残っている「ルッキズムを経験した」と感じる年齢は、回答者の現在の年齢にかかわらず、大体が 10 代から 20 代、早くて幼少期から、と、総じて若い。

- 印象に残っている「ルッキズムを経験した」と感じる年齢が、10 代の場合は、学校の先生や同級生、20 代であれば会社の同僚・上司、といった関係の相手から、外見に対する評価・判断・差別を受ける傾向にある。また、年齢を問わず友人や親という回答がみられる。つまり、自分の所属している最も身近な社会・環境でルッキズムの経験をするケースが多い。
- アンケートには、具体的なルッキズムのエピソードを聞く質問は設定しなかったが、数名の方が経験談を記入してくださった。それら、外見に関する発言のいくつかは、性差別な発言でもあることが確認された。
- 男女間でルッキズムを経験したことがある、と回答した人の割合に、大きな違いはなかった。
- ユース（30 歳以下）およびミドル（30～50 代）世代において、外見を評価・判断・差別された経験のある人の割合は、シニア（60 歳以上）世代と比較して、高くなっている。
- 外見を評価・判断・差別された経験があっても、他者にそれを相談したことのある人の割合は、どの世代でも 50%を切っている。
- シニア層よりも、ユース・ミドル層の方がルッキズムの経験があると答えた人の割合が大きかった。これは、若い時の方がライフイベント（就学や就職、結婚など）が多く、その時々で、ルッキズムに直面する可能性が高いことが考えられる。
- 若い人にとって、就職や結婚などのライフイベントにおいて、外見が判断材料の 1 つとして用いられる傾向にあると考えられる。一方、シニア世代にとっては、職場や家庭のさまざまな事柄で判断される機会が増えているからだと考えられる。

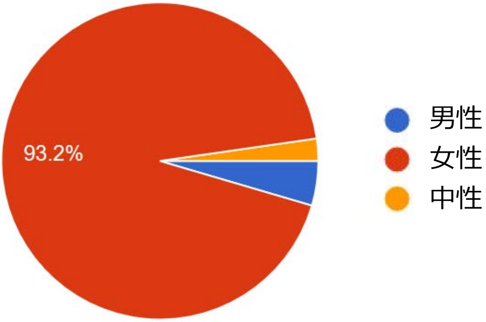
＜韓国語版アンケート結果＞ 回答者 44 名

1．回答者について

(1) 年代

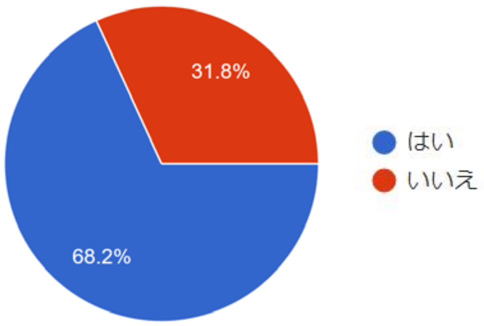


(2) 性別

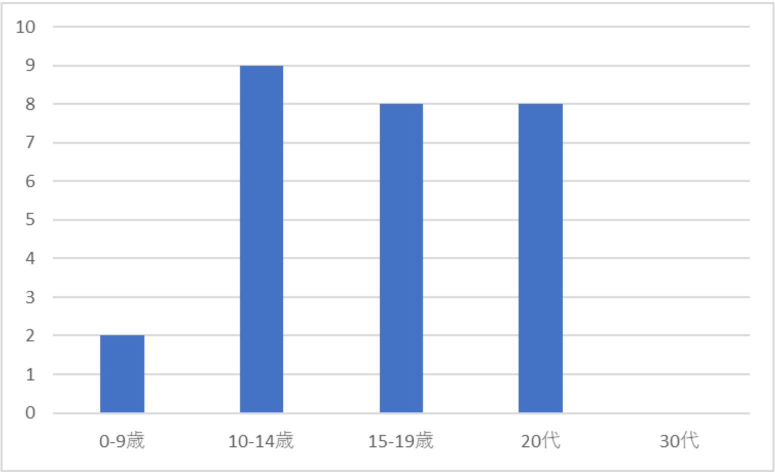


2．回答者の「ルッキズム」の経験について

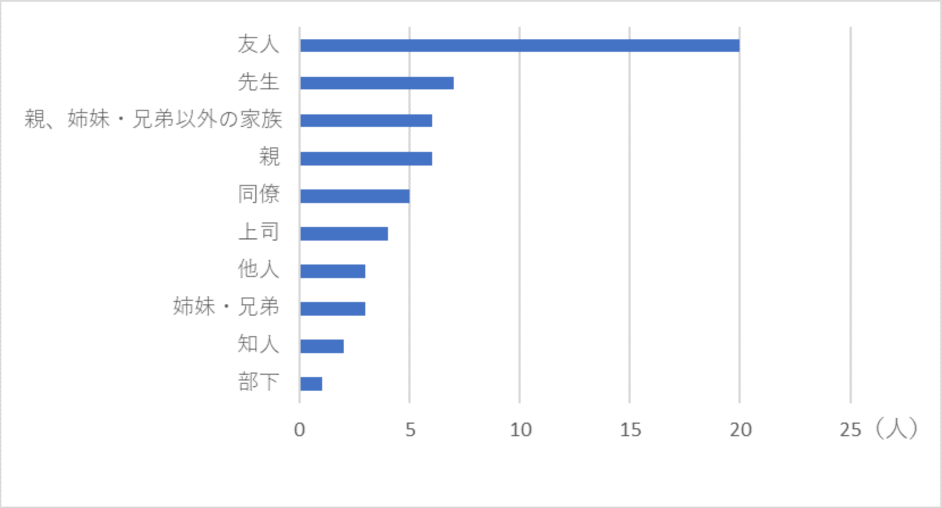
(1) 外見による評価・判断・差別の経験の有無



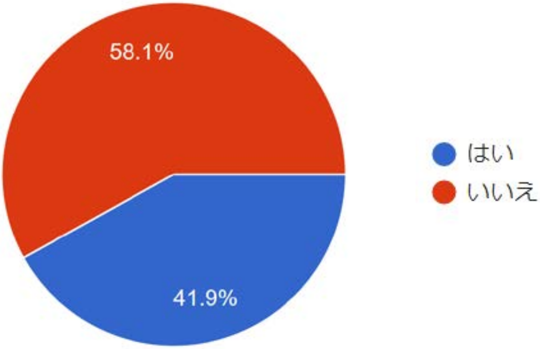
(2) 外見による評価・判断・差別に関して、最も強く印象に残っている経験を受けた時の年齢



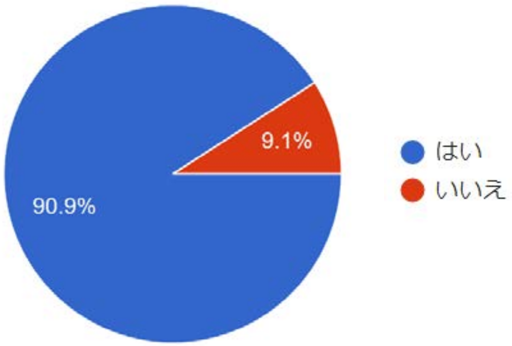
(3) 外見による評価・判断・差別をされた相手との関係



(4) 外見による評価・判断・差別を受けた時、他者に相談した経験の有無



3. (1) 周囲の人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けた経験の有無



アンケートに記載されたルッキズムの具体例

- 多くの人の前で外見を指摘された。何度か自分自身の外見が嘲弄された。その時私は中学生であったが、とても恥ずかしかった。
- 顔が冷たい印象だから無愛想だ、わがままだという考えを持たれる。
- 「女の人の化粧は礼儀だ、あなたの顔はきれいな方ではないでしょ」と言われた。

＜韓国語版アンケート考察＞

- 外見を評価・判断・差別をされた相手との関係性について、韓国語版アンケートでは友人に次いで先生が 2 位となった。これは、友人関係と異なり、指導的立場にある先生から言われた場合は印象に残るので、上位に入っていることが考えられる。また、韓国における教師の生徒への影響力や関係性が、日本と異なる可能性もありえる。

- 「周囲の人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けた経験の有無」の項目について日本語版・韓国語版のデータを比較すると、「はい（あり）」と回答した人は日本語版では 41.3%なのに対し、韓国語版のものでは 90.9%となっている。ルッキズムに関する相談を受けたことのある人の割合は、韓国語版アンケートの回答者の方が圧倒的に高いということである。これは、ルッキズムが韓国で一般的に認知されている、差別的な言動に対して敏感、もしくは実際にルッキズムに関する相談件数が実際、日本より多いことが理由として考えられる。

NOTE：

今回の日本語版・韓国語版アンケート比較にあたり、留意すべき点があります。主に、日本と韓国におけるルッキズムを比較し、データ検証を行いました。しかし、今回のアンケート調査では、日本と韓国、それぞれの地域における、差別への問題意識や、自分の経験の受け止め方、それに対する行動などの地域的・文化的差異を考慮することができておりません。
その点を踏まえ、データを分析する必要があります。

5.　あなたの周囲でもルッキズムについて考えてみよう！

ワークショップ集

このブックレットをお読みくださっているあなたも、周囲の人とルッキズムについて考えてみませんか？以下のワークシートの質問を読んで、経験や考えを書いてみましょう。記入したら他の人と共有し、どうしてそのような行為をしたのか、また考えたのか話し合ってみましょう。

(1) あなたや身近な人の「ルッキズム」にまつわる経験について

①あなたや身近な人が、外見に関して評価や判断、差別されたことはありますか？　それに対して、どのように対応しましたか？

②あなた自身や身近な人が、他者の外見を評価・判断・差別したことはありますか？どうして、そうしたのでしょう？

(2) あなたにとっての「美しさ」とは？

①あなたは、どのような外見を美しいと思いますか？

② ①で記入した外見を、どうして美しいと思いますか？

★考えるポイント(1)

性差別を否定するフェミニズムは、「個人的なことは政治的なこと」という考え方を大切にしてきました。そのフェミニズムの思想から、外見評価をめぐる女性の生きづらさは「個人に起こった出来事」ではなく「政治的な出来事」ということが言えるでしょう。つまり、「美」を巡る私たちの価値観は、社会的につくられた産物なのです。このことを踏まえて、ルッキズムがどのように作用しているのか、という課題を考えてみましょう。

① 私たちはどのような外見の評価基準を、どのように自分の価値観として内面化してしまっているでしょう

② そのことで、どのように心理的・身体的ダメージを受けているのでしょうか

③ どのようにさらなる被害者を生み出しているのでしょう

★考えるポイント(2)

外見に疾患や外傷を持つ女性たちは、一層の外見評価に晒されて生きてきました。その時に、生きづらさを感じもやもやする一方で、彼女たちはさまざまな形で、そのハラスメントに対処してきました(p.9 参照)。彼女たちの生き様を参考に、外見評価による生きづらさが生まれる回路や、生きづらさを緩和するための方策を考えてみましょう。

① 個人的な対処法はどのような場合に有効でしょうか

ex) A さん：比較対象を理想化しない

“顔が、自分の中で占める割合が、どんどんどんどん、年齢をとってきたっていう意味でもだいぶ薄れてきてるというか。やっぱり、歳をとってくると、あざがあるないにかかわらず、容貌っていうのは、女性も男性もシワが増えたりたるんできたり(笑)、体型も崩れてきたり。そういう意味で、他の人、一般の人もみんな衰えてくると思うんで。”

② 集合的な対処法はどのような条件のもとで成立するのでしょうか

ex) Positive Exposure: The Spirit of Difference

外見にあらわれる疾患をもつ人々を写真に撮影するプロジェクト。アルビノの人々を撮影した”Redefining Beauty”の試みは、否定的に評価されてきた外見的特徴を「積極的に見せる(Positively expose)」。

★私たちは、ルッキズムを考える上で、上記のポイントが重要だと考えますが、それらに対する答えを持っているわけではありません。どのように見た目による差別が引き起こされ、どのように立ち向かうべきなのか。共に考えていきましょう！

6.　韓国の若者より

本ブックレットを、韓国YWCAの若者に共有し、読んだ感想を聞きました。

Ⅰ． 韓国でルッキズムというと、「誰か」が設定した「美しさの基準」のせいで傷つくさまざまなケースが連想されます。中でもほとんどの場合「女性」を想像し、女性に強要される「飾り（クミム）労働」*を思い浮かべます。私たちが「美しい」と錯覚している枠組みのせいで、たくさんの女性たちが外見で測られています。
けれど、「美しさの基準」は誰が決めているのか、という疑問が残ります。そして、その枠組みに沿わない対象に対して、人々は「先入観」を持ちます。そのせいで差別と偏見が起き、それはすぐに暴力につながります。
今回のアンケートの結果を受けて、（韓国の）私たちもルッキズムに対する声を集めるべきだと思います。美しさという暴力を誰が設定し、誰が生産しているのか、そのせいで誰がどれだけ被害を受けているのかを知るべきでしょう。それを基に、連帯して運動を共に模索していくべきだと思います。

Ⅱ． ルッキズムとは単純に外見に対する偏見のみを指すのではなく、セクシズム、レイシズム、エイブリズム（健常主義）、エイジズム（年齢差別）などと結びつくものであるとは想像していなかったため、（このブックレットを読み）ルッキズムについてもう一度考えるきっかけになりました。
ルッキズムは男性に比べて、女性に対してより高い外見の基準を押し付けていますが、これを基にルッキズムの経験の有無を調べ、（経験者の）割合を示すこと

---

* https://femiwiki.com/w/%EA%BE%B8%EB%AF%B8%EA%B8%B0_%EB%85%B8%EB%8F%99

は適切ではないと思います。自分も知らない間にルッキズムを経験することが非常に多いと感じます。私自身も、認識せずに使用していた言語や行動の多くが、ルッキズムを表現していたという事実を学びながら知ることができました。

Ⅲ. 地域とルッキズムの関係を説明した事例（釜ヶ崎）がありましたが、このような事例は他にももっとあるように感じました。ルッキズムが個人の問題ではなく、政治的・社会的な問題だと認識できたことは良いと思いますが、なぜ政治的・社会的な問題なのかを、より深められたらよかったのではないかと思います。

Ⅳ. ルッキズムは全世界的な現象ですが、特に日本・韓国・中国で生じています。本文にあるように、多くの人がルッキズムを日々の生活の中で経験しています。このことは調査結果として、よく示されていると思います。日本におけるルッキズムの実際のケースを読んだ時、日本と韓国の経験が非常に似ていると感じました。社会や文化によって生み出されるルッキズムは、深刻な政治的・社会的な問題であると思います。
日本には「女子力」という言葉があるほど、社会の中で女性の外見は重視されていると感じます。また、化粧品業界も韓国に劣らず発達しています。けれども、「周囲の人から、外見による評価・判断・差別に関する相談を受けた経験の有無」の項目について日本語版・韓国語版のデータを比較すると、「はい（あり）」と回答した割合が、50%以上の差があるのは驚きでした。

Ⅳ .『ルッキズムエピソード、私たちにとって「美しさ」とは何か』で共感できる部分が多かった。アンケート調査を実施する際、年齢を設定して調査すると、また違う結果が出たのではないかと考える。

編集・発行
公益財団法人日本 YWCA

〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
東京 YWCA 会館 302 号室

tel. 03-3292-6121　fax. 03-3292-6122
mail. office-japan@ywca.or.jp　http://www.ywca.or.jp